

世界の第二層都市の比較分析に基づく大阪の交通戦略の提案

—国際交通インフラと都市間交通インフラの連携に主眼を置いて—

東京中心の高速交通ネットワークの拡大により国土の一極集中化が進む中で、大阪に対しては、西極としての玄関機能（空港、港湾機能）、首都のバックアップ機能（補完的役割）、西日本地域全域との連携強化が求められており、そのために域内のネットワーク強化や利便性向上によるメガリージョンの基盤強化が不可欠とされている。本提案は世界の都市域人口統計の分析に基づき、各国の第二層都市の特徴を明らかにした上で、都市の発展戦略を交通インフラの機能連携という観点から考察し、東京追随型の思考に囚われない独自の大阪の発展戦略を明確にすることを目的としている。

本提案では、国際交通インフラである空港と都市間交通インフラである高速鉄道駅との近接性が第二層都市の国際旅客数に大きな影響を与えていること、および大阪都市圏においては両者の近接性が相対的に低いことを明らかにしている。その上で、大阪が国際旅客に選ばれる都市となるためには、国土軸を形成する高速鉄道との「国際・都市間連携」を重視した空港の活用が求められる。そこで、国内機能に特化しており、リニア整備により利用者が大幅減となることが予想される大阪国際空港の国際化などの方策が検討されるべきことをモデル分析によって示唆している。